地球ギャラリー vol.91

Botswana
［ボツワナ］

写真・文＝鈴木革（写真家）

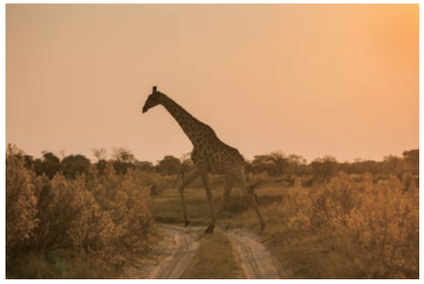
二つの 世界遺産を求めて
――アフリカの秘境国を行く

世界自然遺産に登録されているオカバンゴ・デルタ。11～4月に源流部に降った雨が5カ月間かけてこの地に到達するため、5月ごろから増水し、8～9月に最高水位に達する。この時期、乾期の真っ最中であるカラハリ砂漠の中で、デルタはまさに楽園となる

わずか203万人が暮らす小さな国だ。この希薄な人口の要因に、国土の大半を占めるカラハリ砂漠の存在がある。その広さは日本の4倍とも言われ、ボツワナを中心に周辺国まで広がっている。砂漠と言っても雨期には若干の雨が降り、地表は草原や低木で覆われているから、むしろサバンナと言うほうがふさわしい。だが乾燥に加えて平均標高が千メートルを超えるため、昼夜の寒暖差が非常に厳しく、人間活動に大きな制約を課している。

この過酷な大地にあって「カラハリの宝石」と呼ばれるのが、オカバンゴ・デルタ。遠く北西にあるアンゴラ山地の降雨を集めた川が、千キロ以上も流れてボツワナに至り、緩やかな盆地状の地形で氾濫を起こしてできた珍しい内陸デルタ（三角州）である。川はここで蒸発して消えるのだが、氾濫原は四国を凌ぐ広さの緑豊かな湿地帯になっている。当然ながら野生動物の宝庫でもあり、世界の富裕層の穴場リゾートとして、まさに知る人ぞ知る場所である。

オカバンゴ・デルタに到達した川の水は最終的には蒸発する。内部には無数の水脈が走り、陸路のアクセスは限られるため、超高級ロッジには自家用飛行機の滑走路が併設されている



デルタ東部に位置するモレミ野生動物保護区には四輪駆動車で入れる。中にはキャンプ場もあるが、近年はアフリカゾウが急増していて油断大敵だ（下）。突然、大型哺乳類と鉢合わせすることもあり、あまりの至近距離にお互いに驚かされる（左）

レイコップスから南西に十数キロ離れたゼレ村へと向かう未舗装路。この辺りは低木も生えない草地で、カラハリ砂漠の茫漠とした地平線が広がる

ボツワナの旅は「カラハリの戦い」と言ってもよい。いや、そもそも勝ち目などないのだから「洗礼」と言うべきかもしれない。近年では日本発の高額ツアーも催行されているが、とにかく交通インフラが乏しい国なので、旅には自前の交通手段、それも頑丈な四輪駆動車が要る。目的地まで、地平線に消えるアスファルト道を数百キロ、時に千キロ以上も走り、さらにその先には砂深い悪路が待っている。行けども行けども変化しない茫漠たる風景にうんざりし、時に道をふさぐウシの群れや野生動物の飛び出しに肝を冷やす。悪路では、身体が痺れそうな振動や尻が跳ねるほどの揺れ、それに容赦なく目や鼻口に侵入する砂のパウダーに閉口する。だが「洗礼」の先に、地球最上の絶景がある。

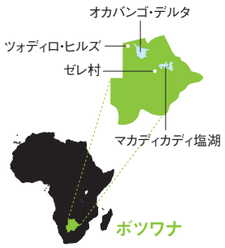
アフリカ南部にあるボツワナ共和国は、南アフリカ共和国の北にある内陸国で、日本の約1・5倍にあたる57万平方キロの国土に、

カラハリ砂漠の真ん中にあるゼレ村は、住民の生活向上や自然保護のために、政府が狩猟採集民族の再定住地として設けた新しい村である。ブッシュマンと呼ばれる先住民やその混血など400人が暮らす

ところで、意外なことにカラハリには数万年に及ぶ人類の歴史がある。今では少数民族となってしまったサン族、通称ブッシュマンと呼ばれる先住民は、紀元前からこの地で狩猟採集生活を営んできた。かつて入植者はその暮らしを「原始的」と見下していたが、人類学と考古学の研究が、彼らのシャーマニズムを中心とした思想・文化、そして自然学における超人的な博識を明らかにして、侮蔑的な評価は一変した。その最高の歴史的証拠が、4500点もの古代岩絵を残すツォディロ・ヒルズである。ツォディロはカラハリの大平原にそびえ立つ孤高の山塊で、太古から聖山として崇拝されてきた。岩に絵を描くことは、シャーマニズムにおける重要な所作であると考えられるが、いまだ多くの謎を秘めたままである。

最後になるが、以前、日本でボツワナが話題になったことがある。2002年、長引く不況で日本国債の格付けが下がり、政界で「アフリカの国より低い」と騒ぎになったのである。その「アフリカの国」がボツワナであった。実はボツワナは世界一のダイヤモンド産出国で、経済的に非常に安定した国なのだ。国は資源の枯渇を見据えて、ダイヤモンドで得た収益を学校教育に注ぎ、初等教育の無料化と徹底化を図っている。経済的な安定は治安の良さももたらし、小国だがアフリカの優等生とも称されている。

しかし一方で、全国民の雇用を担う産業が育っていない実情もある。特に農村部での失業率は50％前後とも言われ、現金収入の無い人々は国の福祉を頼るしかない貧しい生活を送っている。アフリカの優等生も、周辺の国々と同じく問題は山積している。



鈴木 革（すずき かく）

1956年秋田県生まれ。85年の開放間もないチベットの取材を皮切りに、以来、開発途上国や秘境を中心に50カ国以上、200件近くの世界遺産を訪れる。著書に、森谷公俊氏（歴史学者）との共著『図説 アレクサンドロス大王』（河出書房新社）がある。

［左上］フィメール・ヒルに残っている岩絵の一つ。圧倒的に野生動物の絵が多いが、場所によってはシンボル化された人間像なども描かれている
［右上］車輪型の幾何学文様は、シャーマニズムの印であるというが、いまだ謎を秘めている

世界文化遺産のツォディロ・ヒルズ。右が主峰のメール・ヒル（男丘）で、奥に見えるフィメール・ヒル（女丘）には多くの岩絵が残っている。岩絵の歴史は紀元前にさかのぼるとみられているが、現在残っているものは9世紀から数百年間にわたって描かれたようである

ゼレ村にある小学校。この校舎には150人の児童がいる。先生はなかなか厳しく、少々おびえながら真剣に授業を受ける1年生たちがほほ笑ましい

ゼレ村では、持ち回りで担当者を決めて、パンと飲み物を村民に配る。担当者は、作業の報酬として国から現金を受け取るという国家の福祉プロジェクトの1つだ

華やかなイベントと言えば

ビューティーコンテスト

コンテスト前にメイクをしてもらう出場者

ボツワナの女性たちは、ビューティーコンテストが大好き。行政や学校が主催して、毎年さまざまな場所で開催される。

その一つが、「ミスRADPコンテスト」だ。RADPとは、遠隔地の村の自立支援を目的としたプログラムで、対象の村出身の18～25歳の女性が出場できる。出場者は10日間の事前合宿に参加して、ウォーキングやパフォーマンスをみっちり練習する。また、生活習慣や健康管理についての講義を受け、外見だけでなく内面の美しさにも磨きをかける。

コンテスト当日は、ドレスを着てのウォーキングや、民族衣装を着てボツワナの文化をパフォーマンスで表現する審査が行われる。華やかに飾り付けられた会場と、こぞってドレスアップを楽しむ観客が大会を盛り上げる。そして最終審査の質疑応答を経て、栄えある「ミスRADP」が決定。優勝者には賞金約50万円が与えられ、故郷の村の発展のために活用される。

美を追求する女性たちが、国を発展させる原動力となっているのかもしれない。

事前合宿は泊まり込みで行われ、ウォーキングなどの基本動作を鍛える

地球ギャラリー

ボツワナの文化を知ろう！

ボツワナ料理と言えば

セスワ＆ケチャップ・マヨネーズ丼

ボツワナのごちそうと言えば、まず欠かせないのがセスワだ。作り方はとてもシンプル。大きめに切った牛肉を熱湯でゆでる。塩を加えて約2時間、牛肉がほぐれるまで煮詰めたら完成だ。ボツワナでは何かお祝い事があれば、鍋いっぱいのセスワが振る舞われる。屋台では、大きなドラム缶を使って調理している光景を見掛けることもある。

一方、都市部でよく見かけるごちそうが、ケチャップとマヨネーズをかけたご飯だ。野菜や魚など好きな具材を入れて、よくかき混ぜて頬張る。中には、ケチャップが何から作られているのか知らない人もいるが、そんなことはお構いなし。子どもから大人まで、みんなが大好きなひと皿だ。

新宿区に店を構える「Tribes」では、アフリカのさまざまな地域の伝統料理やお酒が楽しめる。事前に予約すれば、料理や国をリクエストすることもできるそうだ。アフリカの雰囲気に浸りに、ぜひ一度訪れてみては。

【RECIPE】

［セスワ］

●材料（4人前）

牛肉２kg／塩適量（目安20g）

1. 牛肉を大きめに切り、ひたひたの水を加える。
2. 塩を加えて強火で煮立たせる。煮立ったら弱火にして、牛肉がほぐれるまで１時間半～２時間ほどゆでる。
3. 煮汁を取り除き、木べらを使って牛肉を細かくほぐす。
4. 取り除いた煮汁を少しかけて混ぜれば出来上がり。

［ケチャップ・マヨネーズ丼］

●材料（10人前）

米１～２kg／スパゲティ（米が足りない場合）500g／食用油適量／固形コンソメ２～３個／ジャガイモ２個／ニンジン２個／オイルサーディン１缶／ケチャップ適量／マヨネーズ適量／コショウ適量

1. 沸騰させたお湯に食用油を加え、米を入れる。米の量が十分でなければ、スパゲティを折って加える。
2. 適当な大きさに切ったジャガイモとニンジンを、固形コンソメを溶かした水で煮る。
3. 炊けた米を皿によそい、上から❷、オイルサーディン、ケチャップ、マヨネーズをかける。お好みで、❷の煮汁とコショウをかければ出来上がり。

【SHOP INFORMATION】

Tribes
〒160-0007
東京都新宿区荒木町7-14
AXAS四ツ谷三丁目101
営業時間：17:00～24:00
（土曜17:00～23:00、日曜・祝日定休）
電話番号：070-5366-0092
HP：http://www.tribes.jp/

※セスワとケチャップ・マヨネーズ丼は通常メニューには含まれません

レシピ協力：NPO法人アフリック・アフリカ